

東京都廃棄物審議会

(第33回)

会議次第

日時 令和8年8月25日(火曜日) 15時00分～17時00分

形式 WEB会議

- 議事
- (1) 計画の進捗状況及び散乱ごみの現状と都の取組について
 - (2) 諮問
 - (3) 散乱ごみ対策部会の設置について
 - (4) 検討スケジュール
 - (5) その他

<配付資料>

- 資料1 東京都廃棄物審議会委員名簿
- 資料2 計画の進捗状況等について
- 資料3 散乱ごみの現状と都の取組について
- 資料4 諮問の趣旨
- 資料5 諮問書(写)
- 資料6 東京都廃棄物審議会散乱ごみ対策部会委員名簿
- 資料7 検討スケジュール(予定)
- 参考資料1 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(抄)
- 参考資料2 東京都廃棄物条例(抄)
- 参考資料3 東京都廃棄物審議会運営要綱
- 参考資料4 東京都資源循環・廃棄物処理計画(概要)
- 参考資料5 東京都環境基本計画(概要)
- 参考資料6 東京都食品ロス削減・食品リサイクル推進計画(概要)
- 参考資料7 2050 東京戦略(概要)

東京都廃棄物審議会委員名簿

(敬称略、五十音順)

粟生木 千佳	独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 地球環境部 環境管理・気候変動 対策グループ アソシエイト専門員
足立 夏子	NP0 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長
天沢 逸里	早稲田大学カーボンニュートラル社会研究教育センター 准教授
天野 路子	一般財団法人 地球・人間環境フォーラム 研究主任
大石 美奈子	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協 会 消費生活アドバイザー
岡山 朋子	大正大学地域創生学部 教授
上林 裕介	東京商工会議所産業政策第二部 主任調査役
小山 遊子	日本チェーンストア協会 環境委員会 委員
佐々木 義春	公益社団法人 東京都リサイクル事業協会 副理事長
鈴木 宏和	一般社団法人 東京都産業資源循環協会 会長
高崎 英人	一般社団法人 日本建設業連合会環境委員会建築副産物部会 部会長
滝口 学	荒川区長
田崎 智宏	国立研究開発法人 国立環境研究所資源循環領域 資源循環社会システム研究室 室長
富田 竜馬	東久留米市長
平湯 直子	武蔵野大学経済学部 教授
村上 進亮	東京大学大学院工学系研究科 教授
森 朋子	立教大学環境学部環境学科 准教授
森本 英香	早稲田大学法学部 教授
山高 亜紀子	三宅村長
山本 雅資	神奈川大学経済学部経済学科 教授

計画の進捗状況等について

1 計画目標と実績

2 主な施策の予算措置状況

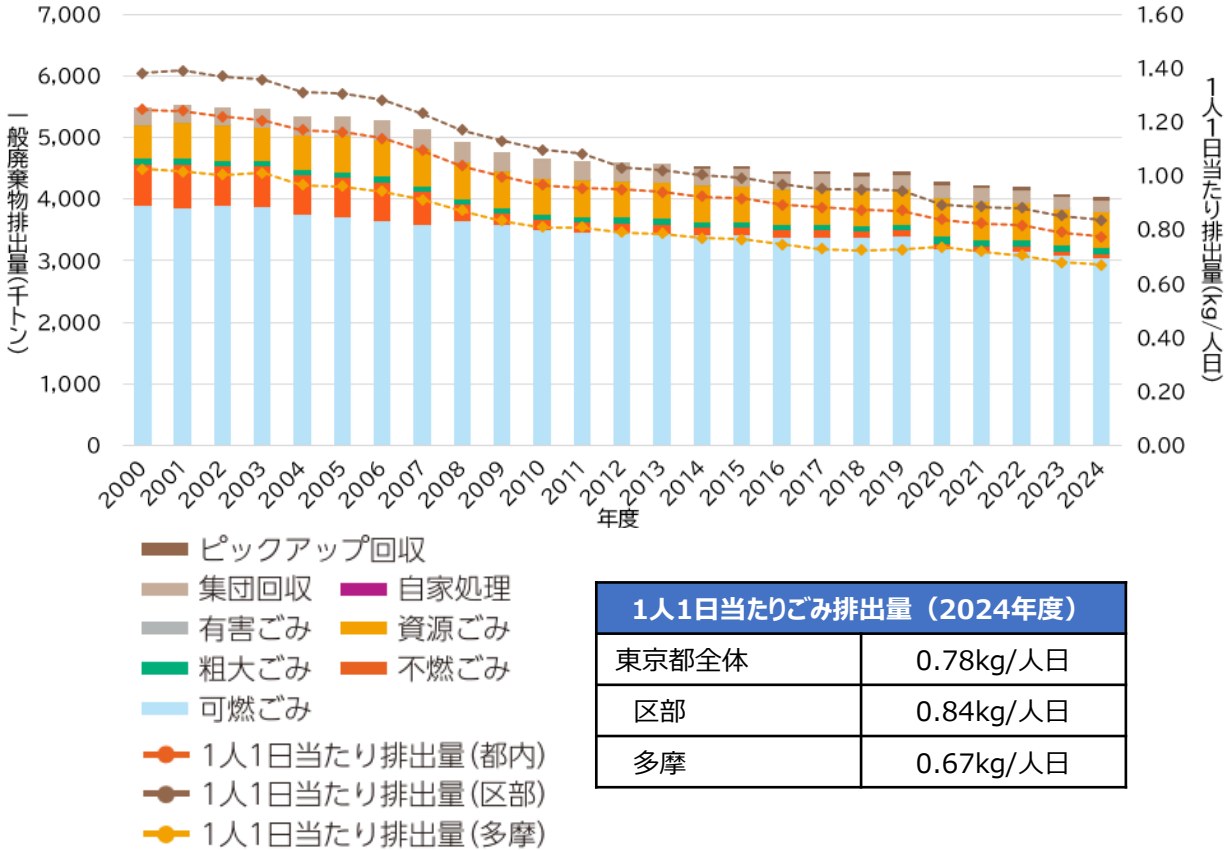
将来目標と実績

	実績		目標	
	2023年度	2024年度	2030年度	2035年度
一般廃棄物排出量	408万トン	402万トン	368万トン	358万トン
一般廃棄物のリサイクル率	25.0%	25.1%	37% (中間目標：2025年度 31%)	40%
最終処分量 (一般廃棄物と産業廃棄物の 合計)	70万トン	69万トン	43万トン	41万トン
家庭と大規模オフィスビルからの 廃プラスチック焼却量 (2017年度比)	約70万t	——	40%削減 (2017年度 約70万 t)	50%削減
食品ロス発生量 (2000年度比)	53.4%削減 (約35.4万t)	——	60%削減	65%削減

将来目標と実績

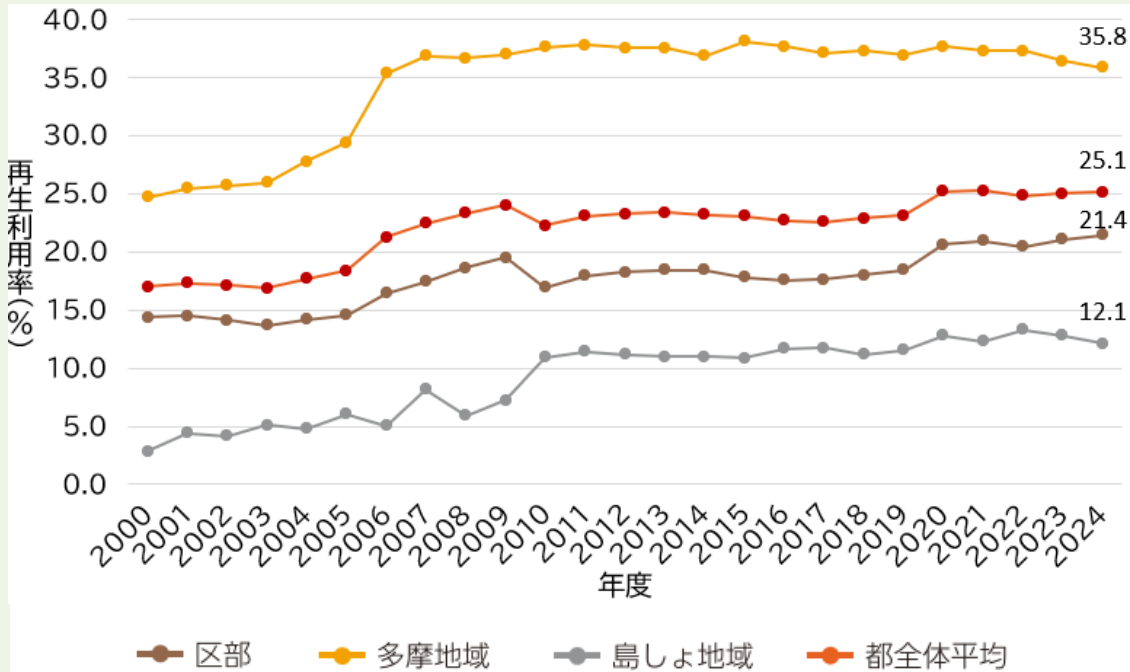
●一般廃棄物の排出量の推移

- 2000年度比約▲25%
- 可燃ごみは約▲20%。不燃ごみは、プラスチックの収集方法の変更に伴い大幅減)



●一般廃棄物のリサイクル率の推移

- 2009年度までは上昇、それ以降、2019年度までは横這い傾向、2020年度から再び上昇
- 多摩地域では36%程度を達成

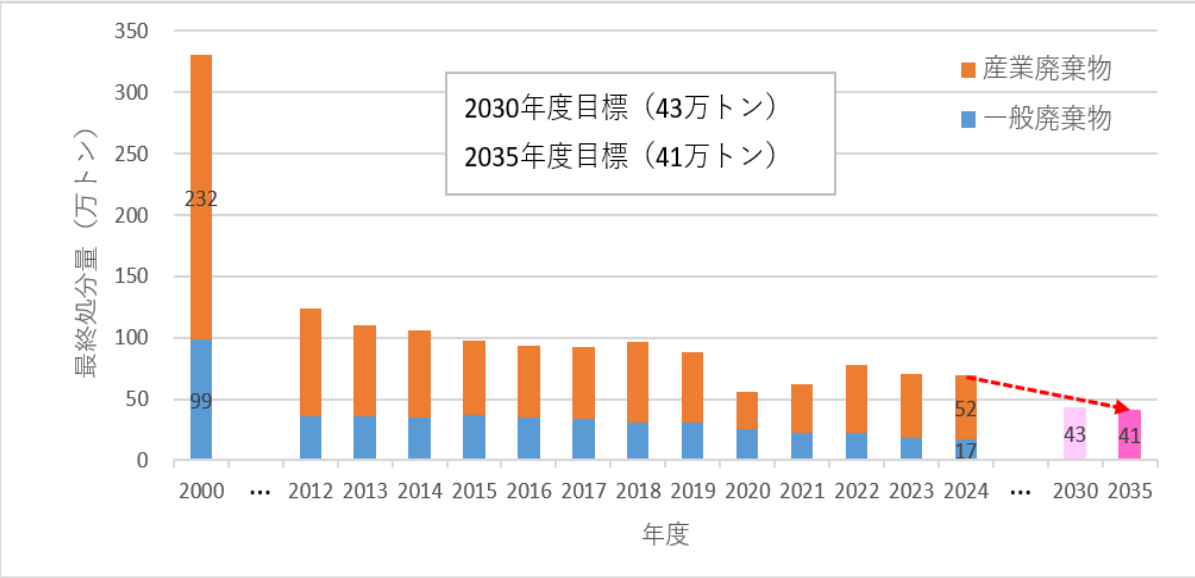


将来目標と実績

● 最終処分量の推移

- 2024年度の一般廃棄物と産業廃棄物の最終処分量の合計は69万トンであり、その内の75%は産業廃棄物
- コロナ禍以降、一時的な増加が見られるが、2000年度比79%削減

最終処分量の経年変化と目標



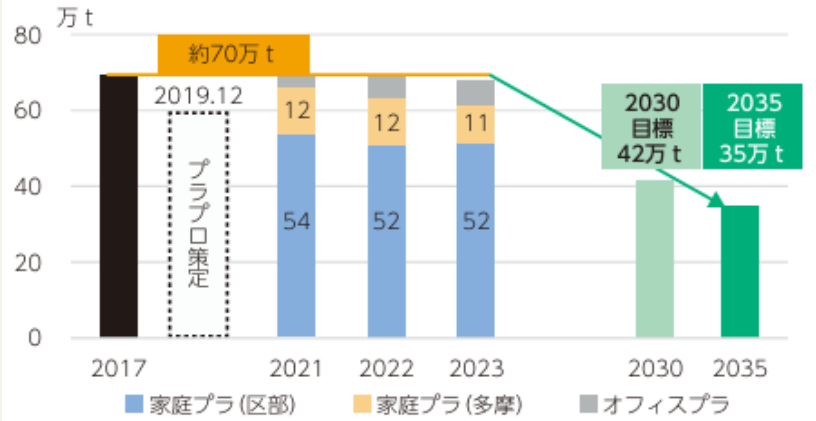
● プラスチックの分別収集の状況

- プラスチックの分別収集を実施している自治体の数は増加傾向
- 令和7年度現在、プラスチック製容器包装は49自治体、製品プラスチックは34自治体

プラスチック分別収集自治体数推移 (単位：自治体)

区 分	R2	R3	R4	R5	R6	R7
プラスチック製容器包装	36	36	37	41	43	49
製品プラスチック	10	10	11	18	26	34

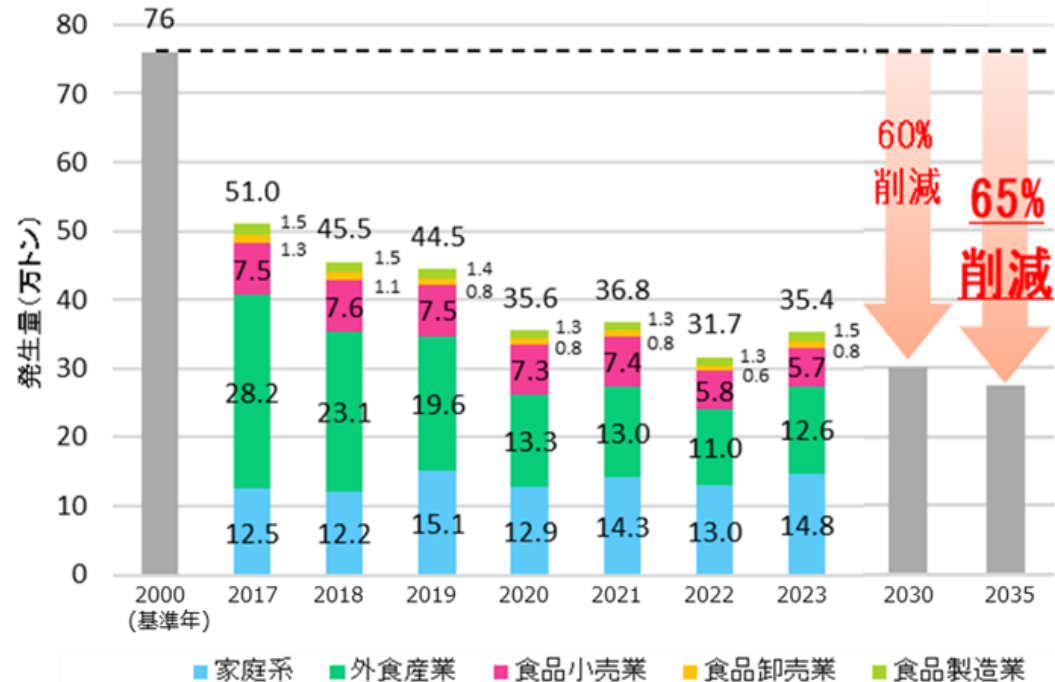
都内プラスチック焼却量の推移と目標



将来目標と実績

● 食品ロス発生量の推移

- 2023年度の都内の食品ロス発生量は、年間35.4万トンで2000年度比53.4%削減
- 東京は全国と比べ、外食産業の割合が大きい



1 計画目標と実績

2 主な施策の予算措置状況

主な施策の予算措置状況

本年3月に改定した**東京都資源循環・廃棄物処理計画**に基づき、**令和8年度から**各施策を強力に推進

令和8年度当初予算

(単位：百万円)

主な予算事業	予算額
■太陽光パネル高度循環利用の推進 住宅用太陽光発電設備のリサイクル支援や調査・普及啓発に加え、リサイクル施設の指定に向けた調査や積替保管施設整備の支援等を実施	51
■高度再資源化設備導入促進事業【拡充】 太陽光パネル、プラスチック等の高度再資源化に資するリサイクル設備等を導入する事業者へ支援を実施し、都内でのリサイクルを促進	255
■大規模オフィスビル等のゼロ・ウェイスト化に向けた調査検討【新規】 都内大規模オフィスビル等の廃棄物排出実態を調査し、ゼロ・ウェイスト化に向けた課題や必要なプロセス及び各種施策等の検討を実施	20
■サーキュラーエコノミー行動変容促進事業 循環経済の取組を促進する拠点として東京サーキュラーエコノミー推進センターを活用し、ムーブメントの醸成やビジネスの創出を推進	89
■プラ製容器包装等・再資源化支援事業 プラスチックの分別収集の促進に向け、区市町村による分別収集の導入や、収集量や分別の質などのレベルアップに向けた取組への支援を実施	695
■都庁プラスチック対策の推進【拡充】 都庁舎での水平リサイクルの取組を継続しながら、出先事業所への展開に向けた実態把握や効率的・経済的な広域回収スキーム等を検討	35

【サーキュラーエコノミーに関する民間ビジネスへの支援事例】

■株式会社Circloop

リユーズブル容器サービスの利用拡大を通じて使い捨て容器(プラカップ、紙コップなど)の利用、排出を削減



■玉川高島屋S・C

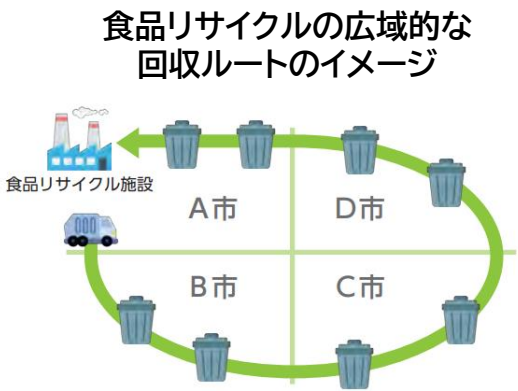
DXを活用した排出量の可視化によるマテリアルリサイクルの推進



主な施策の予算措置状況

(単位：百万円)

主な予算事業	予算額
■ D Xを活用した家庭系食品ロス削減推進事業【新規】 消費者モニターを活用した調査等により、先進技術・サービスの効果検証等を実施することで、家庭から排出される食品ロス削減に向けた取組を推進	59
■ 食品リサイクルの広域化支援事業【新規】 都内食品廃棄物の約7割を占める家庭系の再資源化を促進するため、生ごみを効率的に収集できる自治体横断的なルートの構築を支援	79
■ T O K Y Oクリーンアップムーブメント【新規】 区市町村、関係事業者等との「T O K Y Oクリーンアップ推進協議会」を立ち上げるほか、ムーブメント醸成のための広報展開やリサイクルステーションの導入・運用における支援等を実施	1,085
■ 地域と連携した街の清掃美化推進事【新規】 清掃活動やポイ捨て対策に係る予防・監視の取組など、地域関係者と連携し、街の清掃・美化の推進に資する事業を行う区市町村を支援	220
■ 産業廃棄物関連手続・情報管理等のD X推進プロジェクト【拡充】 産廃関連手続・情報管理等のDXを推進し、QOS向上を図るとともに、資源循環を推進	865



TOKYOクリーンアップアクション
ロゴマーク



主な施策の予算措置状況

(単位：百万円)

主な予算事業	予算額
■廃食用油・廃棄物を原料としたS A Fの推進【拡充】 区市町村のほか、店舗やマンション等でS A F原料となる廃食用油の回収に取り組む企業と連携し回収拡大に取り組むとともに、S A F製造技術の社会実装を後押し	174
■リチウムイオン電池 集めて資源化プロジェクト【拡充】 「混ぜて捨てちゃダメ！」をメッセージの軸に、区市町村等と連携し、リチウムイオン電池の適切な分別等を促す普及啓発や危険性の注意喚起、電池の回収による再資源化のムーブメントを推進	90
■廃棄物処理施設に対するL i B火災緊急対策事業【新規】 リチウムイオン電池（LiB）に起因する火災・事故を防止するため、廃棄物処理施設の管理者による処理時の安全対策措置を緊急に支援	1,279
■小型リチウムイオン電池の安全・安心な処理フロー構築事業 排出状況・処理状況等の調査を踏まえ、安全・安心な回収・選別方法を検討し、環境負荷や資源効率に優れた再資源化システムを構築	130
■ポリ塩化ビフェニル適正処理促進事業 ポリ塩化ビフェニル（P C B）の適正管理の徹底や中小企業に対する廃棄物処理支援等を実施	236

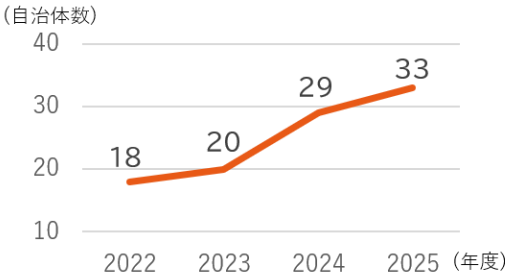
ラグビー大会での廃食用油回収イベント



都庁舎でのリチウムイオン電池等回収キャンペーン



全てのリチウムイオン電池・内蔵製品を回収する自治体数



主な施策の予算措置状況

本年6月には、中東情勢の影響を踏まえて**補正予算を編成**し、石油のみに頼らない社会の実現に向けて、**プラスチック再資源化や都市に眠る資源の有効活用**等の施策を強化

令和8年度6月補正予算

(単位：百万円)

主な予算事業	予算額
■デジタル技術を活用した産業廃棄物収集運搬効率化促進事業 資源循環に不可欠な産業廃棄物の収集運搬過程において、効率化による燃料使用量の削減などを図るため、「配車管理システム」の導入を緊急的に支援	77
■資源・エネルギー制約下における希少資源緊急回収プロジェクト 資源調達の多角化と供給リスクの低減を図るため、家庭等に退蔵するP Cや携帯電話の回収に際し、データ保存等に係る経費を緊急的に支援し、金・銀・銅・レアメタル等の再資源化を促進	340
■高度再資源化設備導入促進事業 資材高騰による再生材需要増を受け、プラスチック処理設備導入支援の件数を拡充し、再生材を安定的に生産できる高度再資源化設備の導入を加速	35
■サーキュラーエコノミー行動変容促進事業（プラスチック資源循環の高度化） 都内におけるサーキュラー・エコノミーの実現に繋がるプラスチック削減に係る地域でのモデル事業や実証事業等について、より実装に近い事業ができるよう補助上限額を拡充して公募	24

散乱ごみの現状と都の取組

背景・現状① – 訪都旅行者の状況と東京の評価 –

- 東京はインバウンドから高い評価を得ており、衛生面も魅力の一つとなっている
- 昨年の訪都外国人旅行者は2,865万人となり、3年連続で過去最多を更新

訪都外国人旅行者が考える東京の魅力

東京の魅力として、「衛生的」は「治安が良い」や「人が親切」と並び、外国人旅行者から高く評価

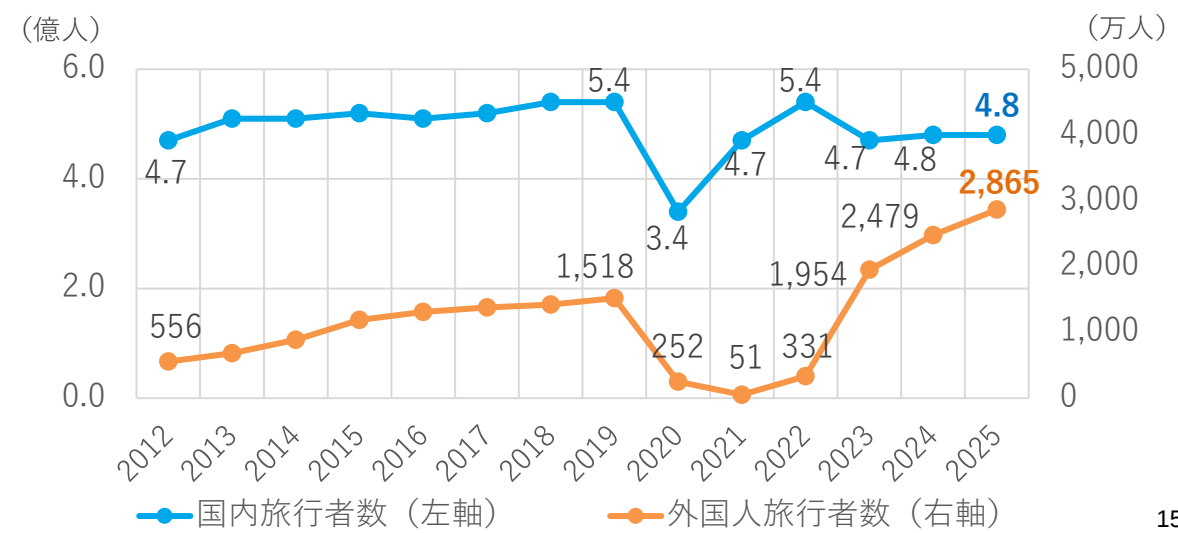
	2023年		2024年		2025年	
1 位	人が親切	59%	治安が良い	53%	人が親切	54%
2 位	<u>衛生的</u>	53%	人が親切	51%	<u>衛生的</u>	54%
3 位	治安が良い	52%	<u>衛生的</u>	51%	治安が良い	52%
4 位	おもてなしの心がある	37%	食事がおいしい	44%	食事がおいしい	44%
5 位	先進的都市	37%	おもてなしの心がある	40%	おもてなしの心がある	37%

観光客が評価する都市ランキング

	2023年	2024年	2025年
1 位	ロンドン	ロンドン	ロンドン
2 位	東京	東京	東京
3 位	パリ	パリ	パリ
4 位	ドバイ	ニューヨーク	ドバイ
5 位	アムステルダム	ドバイ	ニューヨーク

(出典) 森記念財団「Global Power Index」Global Actor～Tourist～

訪都旅行者数の推移



背景・現状② – 東京における散乱ごみを巡る状況① –

- 都民は、観光客の増加により経済的な効果を認識している一方、**ごみや混雑等への影響**も感じている
- 特に、**散乱ごみの増加**が日常生活に与える影響を懸念

観光と住民の生活環境との調和

(参考)観光客の増加による都民の期待と懸念

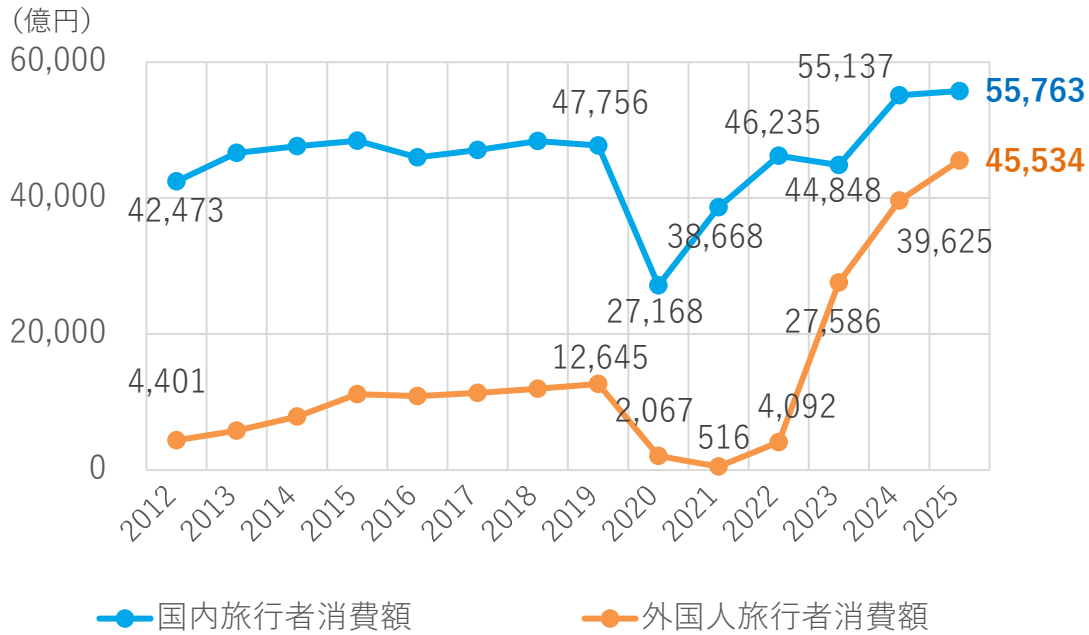
観光客の増加が東京にもたらす効果

地域経済の活性化	36.6%
税収の増加	33.7%
飲食店や商業施設の増加	28.1%
雇用機会の増加	17.4%
異文化交流の促進	17.0%
交通機関や道路の充実	16.6%

観光客の増加が日常生活に与える影響

治安の悪化	41.3%
ごみのポイ捨ての増加	40.7%
交通機関や道路の混雑	34.6%
飲食店や商業施設の混雑	25.5%
文化財などへの迷惑行為	25.4%
観光客による騒音	22.4%

(参考) 訪都旅行者観光消費額の推移



出典：東京都観光客数等実態調査
(注) 2021年は、新型コロナの影響で第1～第3四半期の調査を中止したため、第4四半期の調査結果を4倍して算出

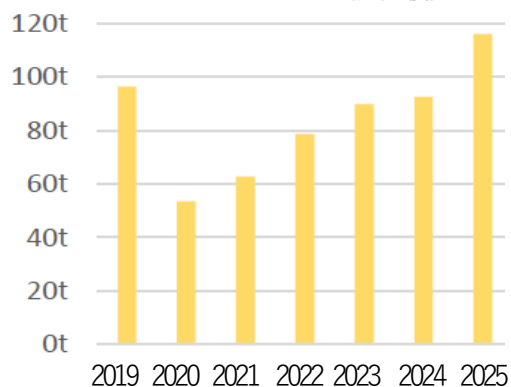
背景・現状② – 東京における散乱ごみを巡る状況② –

- 近年、都心エリア等において、**散乱ごみ量の増加傾向**が見られる地域が存在
- **観光地や繁華街の一部**では、**散乱ごみにより美観に影響**を及ぼす事例が発生

散乱ごみ量の推移

(参考)新宿区繁華街のごみ量の推移

新宿区委託/繁華街道路清掃収集ごみの量
年度別4～11月比較 (区実績)

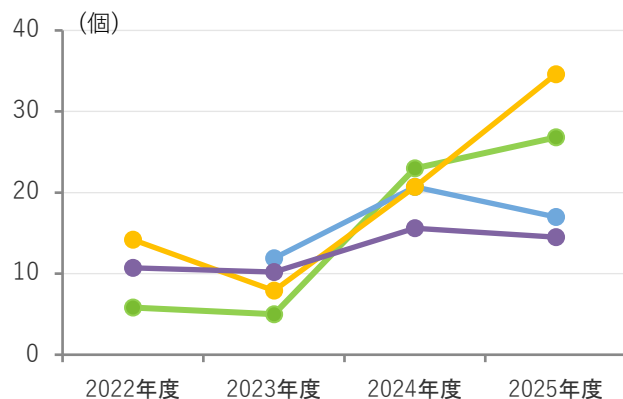


(参考)渋谷区のポイ捨てごみ量調査

渋谷区委託/特定エリア歩道上に、100mあたり
何個のポイ捨てごみが落ちているかを計測



(参考) エリア別の散乱ごみ量の推移



渋谷区調査に基づき東京都作成/
渋谷区内の、100mあたりに落ち
ているポイ捨てごみの個数の推移

(渋谷区)
■ 恵比寿
■ 原宿
■ 代々木
■ 甲州街道(初台・幡ヶ谷)

散乱ごみの事例

区部の事例



都市公園内(台東区)



渋谷駅周辺(渋谷区)



新宿駅周辺(新宿区)

多摩地域の事例



国立公園内(奥多摩町)



河川敷(青梅市)

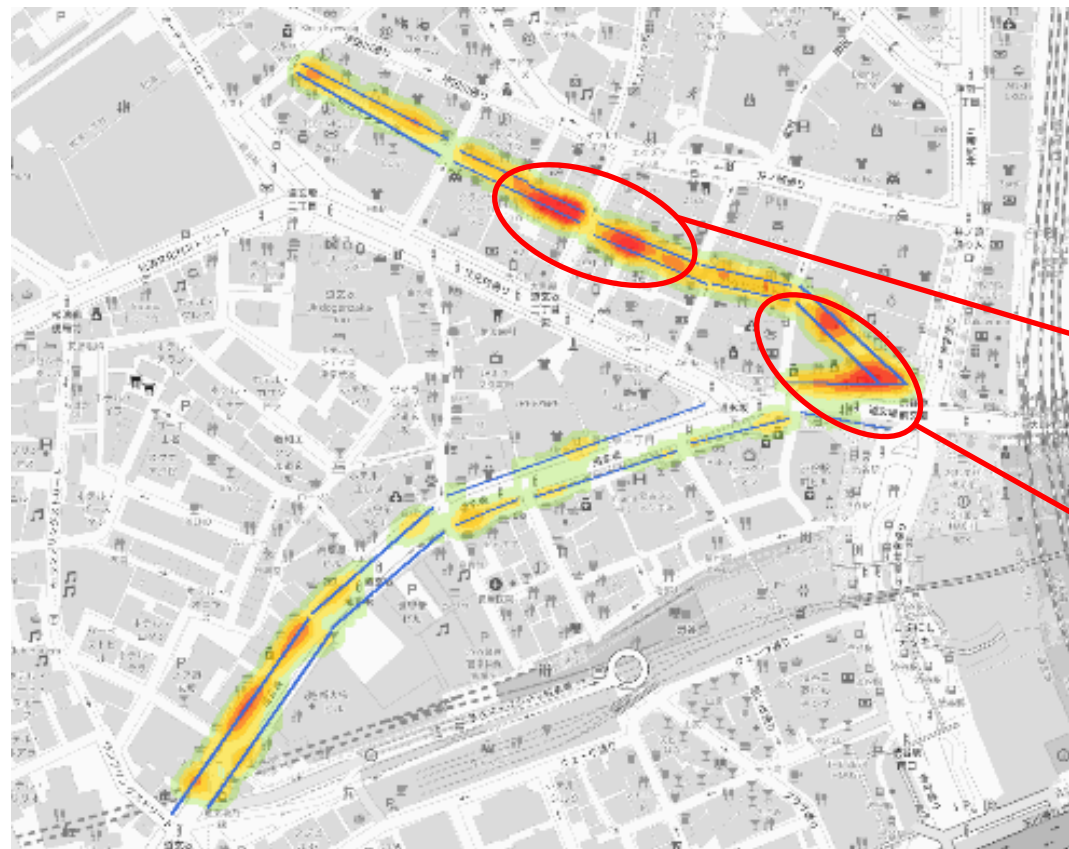


河川周辺広場(あきる野市)

背景・現状② – 東京における散乱ごみを巡る状況③ –

- 散乱ごみは一定地域に均等に分布せず、**集中する箇所**が存在
- 飲食店が並ぶ場所や、**人が滞留しやすい交差点・店舗前**などに**集中する事例**が存在

繁華街における散乱ごみの集中箇所の分布例（渋谷駅周辺）



渋谷区調査に基づき東京都作成/渋谷駅周辺におけるポイ捨てごみのヒートマップ
(赤色は、調査エリア内でも、特にポイ捨てごみの多い箇所)

散乱ごみの例

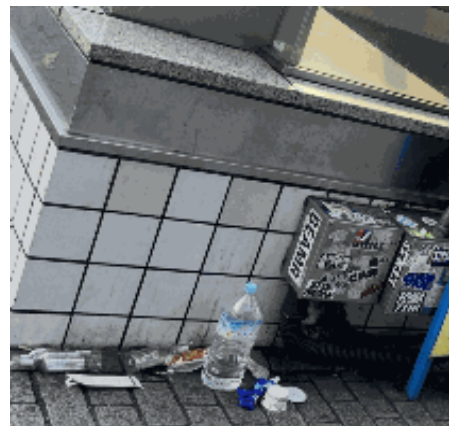
《ポイ捨てごみの例》

- ・ 飲食料の容器
- ・ 瓶、ペットボトル
- ・ 傘
- ・ ビニール袋 等

渋谷センター街
(飲食店等並ぶ場所)



渋谷スクランブル
交差点周辺



東京都の新たな施策展開 — TOKYOクリーンアップアクション —

清潔で魅力ある都市環境の確保に向け、ごみの持ち帰りマナー等の発信や地域美化推進の取組を強化

区市町村や事業者等と連携した環境美化の推進体制を構築し、クリーンアップアクションを展開

“環境”と“観光”の連携により、多様な主体の共感・協働を促進

「ごみは持ち帰る」の理解促進を基本に

みんなで綺麗にするムーブメントを醸成

- ① ポイ捨て防止の理解と実践を促す機運醸成に向けた**広報**を展開
- ② 地域関係者と連携した**街の清掃・美化の推進**を支援

区市町村・関連団体

区市町村

②街の美化推進



③ポイ捨て監視



行動変容を促し清潔な利用環境の実現と持続可能な観光を推進

- ③ ポイ捨て予防やリサイクルステーション設置補助等の取組を後押し
- ④ 混雑緩和やごみ対策等、地域の生活と調和した観光をサポート
- ⑤ 宿泊施設等と連携した持ち帰りアイテム配布を通じ、旅行者へマナー啓発
- ⑥ 交通結節点(ターミナル・駅ビル等)や公共施設のリサイクルステーション整備支援

区市町村

区市町村

宿泊施設等

区市町村・交通事業者

④混雑緩和



⑤宿泊施設連携



⑥リサイクルステーション支援



SmaGO



Reebo

都内
全域

観光
地等

区市町村・事業者・団体等と連携した環境美化の推進

東京の環境美化対策や普及啓発等を進めるため、**T O K Y Oクリーンアップ推進協議会**を設置し、**公共部門・事業者・団体等との連携**のもと、様々な**クリーンアップアクション**を展開

令和8年7月時点のパートナー（敬称略）

公共パートナー

- 都内区市町村
- 公益財団法人 東京都環境公社
- 公益財団法人 東京都観光財団
- 山のふるさと村
- 海のふるさと村
- 奥多摩都民の森
- 奥多摩ビジターセンター
- 小笠原ビジターセンター

団体パートナー

- 一般社団法人 関東鉄道協会
- 東京都ホテル旅館生活衛生同業組合
- 一般社団法人 日本ホテル協会 東京支部
- 一般社団法人 全日本ホテル連盟 関東支部
- 一般社団法人 日本旅館協会 東京都支部
- 一般社団法人 全国清涼飲料連合会
- 公益社団法人 食品容器環境美化協会
- NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム
- NPO法人グリーンバード
- 一般財団法人 日本財団スポGOMI連盟

民間パートナー

- 東日本旅客鉄道株式会社
- 新宿高速バスターミナル株式会社
- 日本空港ビルデング株式会社
- 東海汽船株式会社
- すみだ水族館

パートナーの主なアクション事例① – 区部編 –

多くの人が来訪する繁華街を抱え、ポイ捨て対応等に苦慮しているエリアを中心に、地域の事情に応じた多様な対策を強化する動きが加速

新宿区

- 条例改正でポイ捨て禁止対象*を拡充し、周知・啓発活動等を強化

禁止対象

飲料の缶・瓶その他の容器、たばこの吸い殻、ガムや紙くず

追加

食料の容器等

弁当、菓子、カップ麺その他の食料を収納する容器
ストロー、割りばし、串等飲食に用いる用具

- 新宿・新大久保の混雑緩和・美化対策を強化



新大久保混雑対策

渋谷区

- 条例改正でポイ捨て対策を強化し、ポイ捨て者への過料・店舗等へのごみ箱設置義務化のほか、渋谷駅周辺にスマートごみ箱を設置予定

条例

特定店舗へのごみ箱設置(特定地域)
ポイ捨て者に過料・自販機への回収容器設置(全域)

- 多くの来街者が訪れるハロウィンや年末年始において、混雑・美化対策を推進



台東区

- 自主的に活動を行う「大江戸清掃隊」と連携し、地域美化や清掃イベントを推進
- 観光客参加型のマナークイズやごみ拾い
- 来街者の関心をひきやすい服装で上野・浅草を巡回し、ポイ捨て防止啓発とポイ捨てごみの回収をするカートを活用開始予定



大江戸清掃隊



マナークイズ

江戸川区

- 環境をよくする星くず(ごみ)拾い大会や地域・企業等と連携した美化活動を推進
- 気軽に清掃活動を行える環境整備に向け、清掃用具と回収ごみを収納可能な「ちょこ美化BOX」をJR小岩駅前に設置
- AI搭載トングを活用した清掃活動及びポイ捨てごみのデータ分析



ちょこ美化BOX



AI等搭載トング

パートナーの主なアクション事例② – 多摩・島しょ編 –

自然地を抱えるエリアや住宅街を中心に、地域特性を踏まえた自然環境保全の取組や地域団体等と連携した美化対策が推進

八王子市(高尾山)

- **ごみ持ち帰り運動発祥**の高尾山で、**利用ルール**を策定し地域・行政連携の啓発等推進

「ごみ持ち帰り運動」のPR・美化活動

- ・ 高尾ビジターセンターによる情報発信
- ・ 山道中の**多言語看板**掲示
- ・ HPで「**高尾山の利用ルール**」の紹介
- ・ **ボランティア**等による**清掃活動**



青梅市

- バーベキュー客の多い**釜の淵公園**河川敷等において、地域と連携した**清掃活動**や**ドローン**を使用した**マナー啓発**を実施
- 地域と連携し**多摩川流域**を一斉に**清掃**し、ごみの持ち帰りや川の美化を呼びかけ



稲城市

- 環境美化市民運動・多摩川清掃・三沢川清掃の活動を**地域と連携**し長年にわたり実施
- ポイ捨て禁止等の**ポスター**を市民から**募集**し、**最優秀作品**を**市内**や**リサイクルカレンダー**に掲示



小笠原諸島

- **海ごみゼロアクション**の一環として、**小笠原ビジターセンター**を中心とした関係主体の連携のもと、**父島・母島**での**海岸クリーンアップイベント**を開催
- **カヤックツアー事業者**と連携した**海岸清掃活動**も実施



パートナーの主なアクション事例③ — 事業者・団体編 —

T O K Y O クリーンアップアクションに賛同いただいた業界・関係主体による多様な取組が推進

交通業界

- JR東日本は、廃棄物の分別と資源化推進に向けて、従来の駅ゴミ箱より分別の細分化と視認性向上等の工夫を行った「リサイクルステーション」を首都圏エリアにて設置拡大
- バスタ新宿は、都と連携しターミナル待合所における観光客向け広報啓発を実施中。今後、羽田空港等でも広報展開を予定



宿泊業界

- 東急ホテルズ&リゾーツは、アメニティ使用量の削減に御協力頂きプラスチックごみの削減等を図ると共に森づくり活動への寄付を行う「グリーンコイン制度」を展開
- 京王プラザホテルは、選別で規格外となったバナナを活用したアイスや日本酒造りでできる酒粕を無駄なく使ったパンを販売



飲料業界

- (一社) 全国清涼飲料連合会は、異物削減効果のある自販機横新機能リサイクルボックスを開発。異物混入防止ステッカー含め展開中
- (公社) 食品容器環境美化協会は、行政と市民の協働によるまち美化手法である「アダプト・プログラム」の促進や環境学習支援、散乱防止啓発等を展開



NPO等

- 荒川クリーンエイド・フォーラムやグリーンバードなど、様々なNPO法人等が地域の清掃美化活動と美化意識の醸成を下支え
- (一財) 日本財団スポGOMI連盟が推進するスポーツごみ拾いも取組の輪が拡大。本年6月には国際ロータリークラブ第2750地区が国内最大規模のスポGOMI大会を都内開催



今年度の広報スケジュール — 広報展開のロゴ —

- ✓ 7月30日の協議会を皮切りに、**区市町村や事業者等と連携**し都内各地で**美化プロモーション**を展開
- ✓ 年間を通じたPRに加え、**夏・冬に重点広報期間**を設けイベント・キャンペーンを実施

キャッチ
フレーズ

KEEP TOKYO CLEAN
(東京をきれいに)

ロゴ※



キ-プ ト-キョ- クリーン

※一人ひとりのアクションがきれいな東京につながるというメッセージを込め作成

7/30

8月下旬～10月頃

10月～12月

1～2月頃

協議会

夏の重点広報期間
(区部・多摩エリアでイベント)

夏の持ち帰りキャンペーン
(都内宿泊施設と連携)

都内各所の集客施設・大規模
イベントとのタイアップ期間

冬の重点広報期間
(区部エリアでイベント)

冬の持ち帰りキャンペーン
(都内宿泊施設と連携)

サイト・WEB・動画・ポスター等を活用した啓発、インフルエンサー等による国内外への発信

パートナーと連携したPR展開（区市町村・交通・宿泊・飲料・NPO等）

諮問の趣旨

（諮問の趣旨）

昨今、都内の繁華街、観光地、河川敷等における散乱ごみが増加し、一部地域で社会問題化しているため、散乱ごみの発生を抑制するとともに、適切な処理と資源化を促進する方策について諮問する。

（検討いただきたい事項）

次の 1 及び 2 について、概ね 2030（令和 12）年頃を想定した政策の方向性及び施策の枠組み構築の 2 つの視点でご検討いただきたい。

- 1 街の美化推進に向けた、散乱ごみに関する政策の方向性
- 2 具体的な施策の実行に向けた社会的枠組み

（背景）

- 我が国では、循環型社会形成推進基本法の規定に基づく循環型社会の構築に向け、廃棄物の処理及び清掃に関する法律や資源の有効な利用の促進に関する法律、その他各種リサイクル法に基づき、廃棄物の適正処理やリサイクルの枠組みを整備し、各種施策を展開してきた。
- 特に、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の累次の改正により廃棄物処理に対する規制を強化した結果、自治体や企業などの組織的取組が進展し、全国的に社会問題となっていた廃棄物の不法投棄が大幅に削減されるに至った。
- 一方で、コロナ禍を契機とする行動様式の変化や、地域ルールに通じていない観光客の増加などとも相俟って、近年、公共空地や路上でのごみの散乱が、一部地域で社会問題化している。
- 都はこれまで、東京都資源循環・廃棄物処理計画などに基づき、一般廃棄物処理や街の美化を所管する区市町村に対して、関係施策の実施に必要な技術的助言や財政支援を行うとともに、区市町村と都との共同検討会において、東京 2020 大会を見据えた街の美化対策等について議論してきたところである。
- 上記の社会経済状況の変化に伴い、東京都資源循環・廃棄物処理計画が目指す持続可能な資源利用の実現等の観点も踏まえ、再度、散乱ごみの発生を抑制するとともに、適切な処理と資源化を促進する方策を検討し、迅速かつ効果的に実施していくことが求められている。

（他の計画・戦略等との関係）

都は、本年３月、東京都資源循環・廃棄物処理計画を改定した。散乱ごみ対策を検討するに当り、同計画で示している資源循環施策の中長期的な方向性を踏まえて検討を進めていく必要がある。

8 環資計第 3 7 8 号

東京都廃棄物審議会

東京都廃棄物条例（平成 4 年東京都条例第 1 4 0 号）
第 2 4 条第 2 項の規定に基づき、下記の事項について、
東京都廃棄物審議会に諮問する。

令和 8 年 8 月 2 5 日

東京都知事 小池百合子

記

都内における散乱ごみ対策の強化について

東京都廃棄物審議会散乱ごみ対策検討部会委員名簿

(敬称略、五十音順)

栗生木 千佳	独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 地球環境部 環境管理・気候変動対策グループ アソシエイト専門員
織 朱 實	上智大学大学院地球環境学研究科 教授
町 野 静	弁護士法人イノベンティア 弁護士
村 上 進 亮	東京大学大学院工学系研究科 教授
森 朋 子	立教大学環境学部環境学科 准教授
森 本 英 香	早稲田大学法学部 教授

散乱ごみ対策 検討スケジュール（予定）

令和 8 年度

8 月 2 5 日 廃棄物審議会総会（第 3 3 回）

・ 諮問



● 部会等での審議（6 回程度）

令和 9 年度

春頃 廃棄物審議会総会（第 3 4 回）

・ 散乱ごみ対策の中間まとめ

夏頃 廃棄物審議会総会（第 3 5 回）

・ 答申